

2017年12月

現代における若者のコミュニケーション能力の低下について ～社会状況の変化とコミュニケーション環境に着目して～

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B4R11189 山田康陽

【卒業論文概要】

現在、必要な能力のひとつにコミュニケーション能力があり、企業が新卒採用の学生に期待する能力のなかで、この力は常に上位に位置づけられている。学生たちがのぞむ採用試験では様々な方法でこの力のチェックがなされ、この力を評価する試みがなされている。また、「若者はコミュニケーション能力が低い」ということがしきりに社会で言われている。現代の若者の多くはコミュニケーション能力に自信ないと感じている。

本論文は、若者のコミュニケーション能力低下は、企業の悩みでもあるが現在では、日本全体が抱えている大きな問題とも言える。この問題の解決法を明らかにしたいが、実際の企業の悩みを研究するのは現段階では難しいと考え、現代若者のコミュニケーション能力の低下は、時代の変化に伴った要因があると仮説を立て、そのうえで、現代若者のコミュニケーション能力の変化と低下の要因を明らかにすることである。

現代若者のコミュニケーション能力低下の原因について、私のアルバイト先である飲食店に来てくださる20代から30前半のお客さんを研究対象とし、若者の家族関係と友人関係の親密さに関するアンケート調査を行った。その結果から、「半数の若者が友だちのことが親に知られなくなった」と答えており、スマートフォンによって友人関係と親子関係の接点が薄れ、親子関係が希薄していることが判明した。次に、「あまり人と目を見て話せない」という項目で男女とも過半数であった。目を見て話すということは、好意や敬意を伝えることでもあるが、これができないと相手の意見が上手く聞き取れないということになる。目を見て話せない理由のほとんどが「恥ずかしい、目を見ると上手く話せない」であり、コミュニケーションをとるには大きな問題である。自分の意思では積極的に話し、コミュニケーションをとりたい、だけど自分は恥ずかしいから目を見てあまりうまく話せない。だからインターネットや情報社会に入り、コミュニケーション能力低下につながると判明した。

調査結果と先行研究を踏まえて、日常のやり取りによく利用されると思われるスマートフォンの利用により、人間関係を狭めていると同時に、顔を合わせない非対面的コミュニケーションが促進されている側面を中心に考察し、現代の情報社会、情報技術の発展により、他者と対面して会話するという機会が減り、どこにいても繋がれる状態になっている。若者は会話でのコミュニケーションをとる必要がないという状況について分析する。

以上を踏まえ、コミュニケーション能力を高めるには普段から会話をすることが必要不可欠である。今後どのように若者のコミュニケーション能力を高めるかが課題として提示する。